

# 児童発達支援自己評価結果

公表：令和6年2月1日

事業所名 幼児教室とことこ

職員数 9 回収数 9 割合 100%

※ 無回答は数値に含んでいないため、回答数と一致しません

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	① 利用者定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が十分のびのび過ごせるスペースがある。</li> <li>クラスごとの活動内容が違う時は、スペースを分けたり、時間差をつける工夫をしている。</li> </ul>
	② 職員の配置数は適切である	8	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの出席人数によって流動的に配置している。</li> <li>職員の急な休みが入ると人手不足な時もあるが、ボランティアさんに来てもらったりしている。</li> <li>概ね適切だが、日にちや曜日によって足りない事もある。</li> <li>⇒配置定員は常に充分満たしているが、細かく指導するためには人手が欲しい。</li> </ul>
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされている	8	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>ロッカーなどは子どもにわかりやすい動物のマークにしている。</li> </ul>
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>運動出来るスペースがある。</li> <li>活動時も必要に応じて除菌グッズを使用し、清潔を心がけている。</li> <li>活動中もおもちゃが見えたり、手が届くところにあるので気が散りやすい。</li> <li>⇒置き場所など工夫していきたい。</li> <li>棚の上など危険がないように整備すべきだが、日々追いついていない。</li> <li>物が多く常に整理整頓を心がけているが、まだ考える余地がある。</li> <li>施設の老朽化は感じるが、改善には大掛かりな工事が必要だと思う。</li> <li>⇒区の施設をお借りしているので、改修も難しいが、工夫して使っていきたい。</li> </ul>
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	7	1		
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページで結果を公表し、風通しの良い雰囲気になっていると思う</li> </ul>
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページで見られるようになっている。</li> </ul>
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		2	⇒外部評価は今後の検討課題。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に虐待、保健衛生対処法、消火器の使用法など、様々な分野の内部研修を行っている。</li> <li>外部研修を受けた時は、必ず全職員への報告を行っている。</li> </ul>
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>職員、皆で検討し、相談したうえで作成している。</li> </ul>
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	1		・ひとりひとりに合った、今一番大切にしたい事を丁寧に計画を立てて支援している。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			・常勤の職員が作成したものを、児童発達管理責任者がチェックし、その支援計画を職員全員で共有している。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1		・月案も立てているが、それにとらわれず、日々相談しながら活動内容を決めている。 ・活動プログラムは様々な工夫をして実施している。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	8	1		・製作などの机上活動、運動プログラム、リズム、感触遊び、視聴覚プログラムなど多岐にわたり、行っている。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9			・集団活動ではあるが、個々に合わせた細やかな対応している。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1		・毎朝、朝礼を行い、その日の流れについてしっかり確認を行っている。 ・グループで心配事や支援方法を確認しあったり、前回有効だった方法を引き継ぐようにしている。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	3		・ひとりひとりの記録を取りながら、その日の出来事を共有している。 ・月に1度のペースでケース会議を行い、全職員で問題点からの解決策を話し合っている。 ・ケース会議をもう少しまめにグループ単位でもやれると良いと思う。 ・担当した子の気づいたことを記録し伝え合っている。ただその日に休みの職員に伝わっていないこともある。 →その日にいない職員への伝達方法は考えているが、難しい。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			・うまくいった方法を記入したり、他者の方法を取り入れ実践したりしている。 ・毎日の記録を取ることで、個別支援計画に反映させている。
	⑳ 定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	1		・モニタリングを行い職員に共有している。
	関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		
㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		9			・気になる親子がいた時は、室長がすぐに連絡をし、適切な支援が受けられるようにしている。 ・保健相談所、家庭支援センター等と連携している。
㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					該当なし
㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					該当なし
㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		8			・保護者の意向を受け、必要であれば園とのやりとりをして、共有をしている。
㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		8	1		・就学支援シートは細かく記載してお渡ししている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3		・常勤の職員が研修を受け、会議などで報告してくれている。
	㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		5	4	・以前は交流していたが、コロナ以降は交流が難しくなっている。 ・個々の発達に力を入れており、定型発達のお子さんと活動していけるよう支援している段階。 ・2階の児童館のイベントに参加させてもらったりしている。 ・公園や児童館で、地域の子供たちと関わる機会がある。
	㉒	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	3		・室長が参加し、必要なことを後日報告してもらっている。
	㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			・家での様子を聞いて、気になる点は保育中気にかけて見ている。 ・受け入れの時や連絡帳の記載事項、降室時に保護者と話しながら気になる点は、職員で共有している。 ・保護者とは、その日の出来事成長などしっかり伝え、また悩みなども引き出せるように保護者対応に力を入れている。
	㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	2		・ペアレントトレーニングと明示してはしていないが、親子参加のイベントをしながらアドバイスを行っている。 ・一部保護者は「ペアレントトレーニング」について知らない。 ⇒機会を見て説明をしていくようにする。 ・全員ではないが個別に声をかけている家庭があり、心理の先生と連携して行っている。
保護者への説明責任等	㉕	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			
	㉖	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			・作成に携わった担当者が前期、後期、ひとりずつに個別支援計画について説明している。
	㉗	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			・保護者からの電話や面談は随時受け付けている。また常に悩みなども聞いている。 ・日頃から保護者とのコミュニケーションを取り、相談を受けられる環境を作っている。
	㉘	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			・コロナ前のような保護者同士の仲良くなれるような場を次年度はお茶会等を企画し、横のつながりをもっとできるようにしたいと思っている。 ・お母さん同士仲良くなれるように、ランチ会やクリスマスの出し物を復活させると良いのでは？ ⇒コロナ以降、色々とお粛してきたので、今後は、保護者間のコミュニケーションを取れるような企画を立てて実施していきたい。
	㉙	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9			・受け入れ時の相談ならば、お迎え時に対応し、保護者が抱え込まないように早急に対応している。 ・相談等の申し出の内容によっては、室長に対応してもらっている。
	㉚	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			・毎月のお便りや公式LINEで伝達している。 ・LINEで活動の様子や写真を直接送れるようになったのは良かったと思う。
	㉛	個人情報の取扱いに十分に注意している	9			・名前が記載されたりしているものは、教室内でシュレッダーをして処分している。
	㉜	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			・複雑な話は、必ず常勤職員の方に報告相談をしてから話すようにしている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児のため、地域の人を招くのは難しい。出来ない現状があると思う。</li> <li>・児童館や公園で遊びながら地域の方と話す機会はある。</li> <li>・公園で当施設の玩具などを貸し、一緒に遊ぶ事はあるが、行事招待まで出来ていない。どのようにすべきか今後検討したい。</li> <li>・事業所のスペース確保問題。慣れない人に対して不安感のある子供もいることを考え、慎重に考えるべきことだと思う。</li> <li>・コロナ前は地域の園と交流をしていたが、今は出来ていない。</li> </ul>
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に職員会議等で確認しあっている。</li> <li>・実践や実演も行っている。</li> </ul>
非常時等の対応	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を行い役割分担の再確認をしたり、館内の連絡の手順も確認している。</li> </ul>
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかん発作があるお子さんについては、状況を詳しく聞いて配慮している。</li> </ul>
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児がいる時は、昼食時にはテーブルも1人で使用出来るようにしている。布巾も別のものを使用している。</li> </ul>
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイルがあり、記入した事を全体で見られるようにして共有している。</li> </ul>
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月職員会議と並行して虐待の研修を行っている。</li> </ul>
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束を行う事例は今のところない。</li> </ul>